

認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

# 2021 年度(令和 3 年度) 事業報告



## 2021 年度(令和 3 年度) 事業報告

1、活動のまとめ	… 1
2、2021 年度事業活動実績	
1) 在宅ホスピス支援センター事業(ホスピスボランティア活動)	… 3
(1)患者らいぶらり    (2)宮崎聞き書き隊	
(3)緩和ケア病棟園芸ボランティア    (4)大切な人を亡くした方の集い	
2) 人材養成のための教育プログラム	… 4
(1)これからライフデザイン塾(宮崎県地域密着型 NPO 社会貢献活動促進事業補助金)	
(2)映画上映会(2021 年度宮崎市在宅療養相談事業)	
(3)がん患者と家族のためのサポーター養成講座(宮崎県がんサロン等運営支援事業業務委託)	
(4)多職種連携コーディネーター養成事業(宮崎県委託事業)	
3) エンドオブライフケア支援事業	… 8
(1)暮らしの保健室	
①ゆるりサロン②ゆるり短歌会③えがおキッチン④セルフケアのためのお灸教室、	
(2)ふらっとカフェ(がんサロン事業・宮崎県委託)	
(3)宮崎市在宅療養相談支援事業(宮崎市補助事業)	
4) ホームホスピスカあさんの家事業	… 1 4
(1)かあさんの家の運営	
(2)訪問介護ステーションぱりおん(医療・介護保険規定による事業)	
5) HALE たちばな	… 1 7
(1)事業概要	
(2)開所行事	
(3)寄付	
(4)休眠預金活用事業	
(5)たちばな学舎・コミュニティカフェ游椿利用について	
(6)医療・介護保険規定による事業	
①みつばち診療所	
②訪問看護ステーションぱりおん	
③日中一時支援 ohana	
④共生型短期入所(福祉型強化)施設 leilei	
6) ホームホスピス推進研修センター事業	… 2 4
(1)ホームホスピススキルアップ研修	
(2)実習受入れ	
(3)一般社団法人全国ホームホスピス協会の事務局運営	
7) 研究・啓発・情報・広報	… 2 5
(1) 認定 NPO 寄付文化の醸成	
(2) ホームページ SNS の充実・報道	
(3)講師派遣・見学者受け入れ	
8) 助成・寄付	… 2 6
9) 組織運営	… 2 6
(1)理事会・定期総会	
(2)事務局	

# 1. 活動のまとめ

## ◎はじめに

1998年、老いても、がんになっても、障害をもっても、最期まで安心して暮らせるまちづくりを目標に「ホームホスピス宮崎」を設立して24年が経ちました。その間、家族や地域のあり方が変化してきて、支援が必要になっても行政も企業もコミュニティも引き受けられない「隙間」が生まれました。この隙間を引き受けるのがNPOの役割ではないかと考え、社会が必要とするサービスを、利益は上がらないけど会員の寄付や助成金等で何とか工夫して提供しようと事業を進めてきました。そして、本年度は、医療的ケアが必要な方と家族を支援しようと「HALEたちばな」の新事業がスタートし、大きな飛躍の年になりました。

昨年からはまった「たちばな在宅総合支援ハウス（仮称）」の呼称改め「**HALEたちばな**」の建設工事は着々と進み、4月から準備室を設けて担当者を配置しました。工事施工業者である大成建設ハウジング（株）との打ち合わせも、オンラインや現場での打ち合わせも含めながら、建物の本体は7月には完成しました。内装の打ち合わせ、外構、看板工事と少しずつ完成していく様子は、楽しみでもありました。新しい建物は、計画の段階で災害を意識したシェルターも兼ねるものにしました。防火に優れた建造物でコンクリート造り、太陽光発電と蓄電池を設置し、駐車場には電気自動車用の充電スタンドを設置。災害時に避難所には行けない方々が、少なくとも1週間は待機できるようにしました。

基本計画から3年をかけて構想を練って、9月に行政の届け出、監査を経て10月1日に無事に開所式を迎えることができました。開所式には、拠点整備の助成金支援の日本財団、宮崎市長、地主の本部さんをはじめ、お世話になっている医療関係の方々や地域住民の方々など、たくさんの方々にお越しいただきました。

この事業の完成までには、たくさんの方々から多額の寄付をいただきました。特に、送迎車の購入を目的にクラウドファンディングに挑戦しましたが、これまでご縁の無かった方々や、全国各地から志をお寄せいただき、改めて感謝の気持ちを心に刻みました。「HALE」とは、ハワイ語で大きな家という意味があります。この場所が、0歳から100歳まで、地域の中で誰も取り残さない居場所になるよう、共に生きる社会の入り口になればとの思いを込めています。

「HALEたちばな」と同時に開設した「**みつばち診療所**」は、宮崎大学医学部・医療・総合診療医学講座と連携し、小児在宅医療だけでなく年齢や疾患に寄らず訪問診療を行う在宅療養支援診療所です。ここでは、医学生や在宅医の研修の場として「たちばな学舎」あり、宮崎県内の医療をけん引する場になればと願っています。NPO法人の診療所の開設は、全国的にみて稀な試みです。楠元恭子医師が院長に着任されスタートして半年ですが、細やかさと機動力のよさで、患者さんの信頼を着々と築かれています。

「**訪問看護ステーションぱりおん**」は、恒久の事務局からHALEたちばなの3階に移動しました。訪問看護を中心に、小児、障がい者「**短期入所（共生型）leilei**」、「**日中一時支援 ohana**」の事業を開所しましたが、365日ぐっすり眠ることができない生活で、休む間もなく介護に追われていた家族は、日中一時支援、短期入所で子どもを預け、ひと時の休息を得ることができるようになりました。また、医ケア児を持つご家族をHALEで雇用し、介護だけでなく仕事をもって社会生活を送れるサポートも実現しています。

「ホームホスピスかあさんの家」は、生目台東の「とも暮らし安庵」の閉鎖に伴い合併し、「かあさんの家安庵」として4軒のホームホスピス運営になりました。かあさんの家のスタッフの不足により、ぎりぎりの勤務体制になって、中々思うように増員ができません。ハローワークや看護協会などに募集をお願いしています。全国的な介護職の不足は、今後も進む高齢化社会をどう維持していくのかという、大きな課題となっています。現場実習等受け入れ、看護学生の実習、研修医の受け入れなど、感染防止の観点からほぼ中止となりました。

コロナ感染の拡大は、いまだ終息に至っていませんが、この中で見えてきたものがあります。それは、大規模で、より効率を上げることが求めてきた現代社会が、このパンデミックに対しては脆弱であったということです。その点では、ホームホスピスが小規模であること、あくまで個別ケアを徹底していることが、感染リスクを最小限に食い止めることができる要因となっていると考えます。

2020年よりコロナ感染拡大による様々な不自由な生活は3年目になりました。県外への移動や人との交流が制限され、多くの研修会や学会がオンライン開催となりました。HMMの研修事業やボランティア活動は、感染状況を見ながら休止や人数を減らしての開催となりました。特に、「患者らいぶらり」、「緩和ケア病棟園芸ボランティア」、「ふらっとカフェ」は、急性期病院での事業ですので、出入りが禁止となり実施できませんでした。

人材養成のための教育プログラムは、「H A L Eたちばな」の1階にある「たちばな学舎」は、「これからライフデザイン塾」を開催する場所として、交通の便の良い街なかにあります。近隣の橘地区へお住まいの方々へ呼びかけも行いましたが、再びの感染拡大で2～5講座は、中止せざるをえなくなり残念でした。ホスピスケア市民講座では、映画の上映会を宮崎キネマ館貸し切って実施しました。「痛くない死に方」は、映像を通して人生の閉じ方が描かれ、深く考えさせられる時間となりました。

がん患者と家族のためのサポーター養成講座は、宮崎大学医学部地域医療・総合診療講座の吉村学先生の協力を得て、医学生を志す高校生や国家試験を終えたばかりの医学生を交えてのオンラインミーティングとなりました。宮崎県に住んでいながら、地域医療について学ぶ機会がなく、生活者の視点を持った医療者を育てる地域医療実習など、大変興味深いものになりました。

一般社団法人全国ホームホスピス協会の事務局も併設している事務局は、一層多忙を極めることになり、事務局人員を増やしました。特に、全国合同研修会を宮崎会場で開催したことで、全国からホームホスピス関係者の方々が参加され、H A L Eたちばなの見学も計画しましたので、過密なスケジュールの日々が続きました。しかし、高齢者だけでなく医療的ケア児の支援も視座に入れての展開が、ホームホスピスのこれからの新しい可能性を示すことになりました。

社会の課題に、できないのではなく、どうやったらできるかを考えて、多くの人を巻き込んでの24年、0歳から100歳までの命に寄り添う事業を展開していくことになりました。

これからも皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

## 2. 2021年度(令和3年度)事業活動実績(2021年4月1日～2022年3月31日)

### 1) 在宅ホスピス支援センター事業(ホスピスボランティア事業)

#### (1) 患者らいぶらり

実施日時：毎月第3木曜日 14:00～16:00

場 所：古賀総合病院 中央4F病棟 東棟3F病棟産婦人科

内 容：病棟の図書管理、整理

担 当：峰 瑞枝

ボランティア：4名

実 施 日：実施なし

合計0日 活動延べ人数：0名

2021年度も昨年同様1度も実施することができなかったが、看護専門学校看護実習時に担当教員の方が数回整理をしてくださったとの報告があった。

#### (2) 宮崎聞き書き隊

実施日時：毎月第2日曜日 10:00～12:00

場 所：暮らしの保健室

担 当：井上 直敬

ボランティア：11名

実 施 日：(参加人数)

2021年4/11(7)、5/9(3)、6/13(7)、7/11(3)、8/8(4)、9/12(休会)、10/10(4)

11/21(4)、12/12(3)、2022年1/9(6)、2/13(4)、3/13(3) 合計11回 延べ参加者数：48名

講座を受けたあとを定着した活動に導くために、聞き手・書き手としての疑問や行き詰まりを解消するために定期的に実施している。また交流の場、情報交換の場としての機能も有している。

- ・上本野純子『思い出』 90才を超えた一人の女性が語った思い出ばなし
- ・聞き書きの研修…年度末開催を予定していたが延期
- ・メットライフ生命 CSR ボランティア活動サポート(全国ホームホスピス協会より依頼)
- ・都城コアカレッジ「認知症の理解～聞き書きについて～」(井上)

#### (3) 緩和ケア病棟園芸ボランティア

実施日時：毎月第1・第3水曜日 10:00～12:00

場 所：宮崎市郡医師会病院 緩和ケア病棟 中庭

内 容：緩和ケア病棟の庭園の花の管理等

ボランティア：9名

実 施 日：実施なし

合計0日 活動延べ人数：0名

緩和ケア病棟が生目に移転して1年になる。

コロナ感染予防のために病院は面会制限があり、ボランティアもしばらくは休止状態である。

#### (4) 大切な人を亡くした方の集い

参加者の高齢化とコロナ禍で集まることができなくなったこともあり、廃止

## 2) 人材養成のための教育プログラム

### (1) これからライフデザイン塾 (宮崎県地域密着型 NPO 社会貢献活動促進事業費補助金)

#### 【開催概要】

#### 第1回「暮らしを支える在宅医療」

期 日：2021年12月10日(金) 13:30~15:00

会 場：HALE たちばな内 たちばな学舎

講 師：楠元恭子 氏 市原美穂 氏

参加者：13名

内 容：

在宅医療について楠元医師が症例を交えながらわかりやすく話し、後半の質問コーナーでは市原理事長も参加。在宅医療には医師だけでなく、多職種が連携してサポートしていく取り組みも伝えながら参加者の質問に答えていった。



○在宅医療とは

- ・在宅でどのくらい医療を受けることができるのか。メリット、デメリット など。
- ・実際の在宅医療を使った方の例を紹介

○質問コーナー

- ・宮崎県の在宅医がどのくらいいるのか。
- ・在宅医療を受けたいときは、どのような手続きがあるのか。
- ・健康なうちに「かかりつけ医」を見つけていたほうがいいのか。 など多くの質問があった。

#### 第2回「お薬との付き合い方」《中止》

期 日：2022年1月21日(金)13:20~

講 師：岡元俊雄 氏

#### 第3回「絵手紙教室」《中止》

期 日：2022年3月

講 師：仁田脇 康二 氏



#### 第4回「ハワイアンヒーリングセルフケア」《中止》

期 日：2022年2月18日(金) 13:30~

講 師：松中 佳子 氏

#### 第5回「防災教室」《中止》

期 日：2022年2月26日(土) 13:30~

講 師：黒岩 雄二 氏

## 【まとめ】

当初、12月1回、1月2回、2月2回の講座実施を計画。

10月開設した「HALEたちばな」研修室を使用することもあり、橘通東地域にお住まいの方へダイレクトメール郵送、ホームホスピス全国合同研修会 in 宮崎にてチラシ配布をした。

ダイレクトメールを郵送したことにより、近隣在住の方からの参加申し込みや問い合わせがあった。

コロナ感染拡大が落ち着いた状況のなか、日々の小さな疑問や不安をどこに相談していいのかわからないという地域の皆さんにとって、近所に診療所が開設し自宅へ訪問診療してくれるということや相談する場所があるという情報発信をすることができた。その効果として、入院や施設入所したら面会ができない、在宅で過ごしたいけれど無理だろうという電話相談もあり、多職種サポートによって家で過ごすことや、家と雰囲気似た場所でケアを受けながら生活できることなどといった情報を伝えるなど、講座へ参加できなくても相談窓口としてのコロナ禍になったからこそ増えた不安を解消するサポートができた。講座に参加された方とは、個別相談にも医師や当会理事長が答えることができ、帰るときの表情はとてもやわらかくなっていった。

12月に1講座を終え、その他の講座の申し込み受付もしていたが、新型コロナウイルスが感染拡大し始めたため、1月19日に講座②の延期を決めた。

参加希望者には高齢者が多いことなどもあり、まん延防止重点措置期間終了後に実施する方向で講師との日程調整をして再計画をしたが、2月10日に3月6日までの期間延長が決まり、残り4講座の中止をせざるを得ない状況になった。すでに申し込みをされていた方へ中止の連絡をしたが、とても残念そうにされ、次回また声をかけてほしいとお言葉を頂いた。

## (2) 映画上映会 (令和3年度 宮崎市在宅療養相談事業)

映画「痛くない死に方」上映会

期 日：2021年12月3日(金) 開演 19:00

会 場：宮崎キネマ館

来場者：62名 事務局・スタッフ 11名



## 【参加者感想】

- ・最期は、自分の家で…とっていますが、今現在かかりつけ医がない。
- ・今、かかりつけ医を探したりしないといけないのかなと思いました。自分の母が入院している時のことを思い出しました。病院ではなく、家で過ごしたい、つながれたくないと言っていたが、病院から呼び出しの電話があり、駆け付けるといろいろつながっていて、それを見たときに、ほっとした自分がいた。
- ・いざという時の対応って難しいなと思った。



(3) がん患者と家族のためのサポーター養成講座(宮崎県がんサロン等運営支援事業業務委託)  
 「(地域発) 若者×がんサポ×ごちゃませ課外授業 (オンライン)」

～生活者の視点を持つ医療人育成にあなたのチカラを！～

期 日：2022年3月13日(日)13:00～16:00

会 場：アートホテル宮崎スカイタワー

ZOOMでのオンラインと会場のハイブリッド開催

講 師：吉村 学 氏 (宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授)

コーディネーター：板井孝老郎 氏 (宮崎大学医学部 社会医学講座 生命・医療倫理学分野教授、臨床倫理部部長)

申込者：61名 受講者：46名(全過程終了42名+途中退席4名)

参加費：無料

内 容：13:00～14:00 講義…県内の「地域包括ケア実習」取り組みの紹介 講師：吉村学 氏  
 14:10～15:50 オンラインミーティング…若者や高校生を交えて  
 15:50～16:00 まとめ



【参加者感想】

- ・宮崎大学医学部の地域枠が増え、地域医療に力を入れていることを知ることができてよかった。全国初の地域包括ケア実習が行われていることも初めて知りました。また、この実習は県内全市町村で行われているので、誰一人取り残さないSDGsにもつながるところがあると思った。宮崎県に住んでいながらも地方医療について実際に目で見て考える機会はなかなかありませんし、自分一人でもできることにも限りがあると思う。宮崎大学で学ぶことでより地方に目を向けられる医者にならなければいけないかと思う。(高校生)
- ・宮崎大学以外の様々な職種の方とのお話は緊張したが、大人の方による経験談、そこから学んだ患者さんとの関わり方、宮崎での現状、将来どんな医療者になってほしいかなどファシリテーターをしながらでもたくさんお話を聞いた。これも一種のコミュニケーションであり、これからは色々な立場の人からお話を聞けたらと思います。個人的に板井先生のお話も伺いたかった。(大学生)
- ・コロナの関係で臨地実習が中止になる状況が続いている中で、どうしても現場の声を聞いたり、地域の医療の現状について知る機会が少なく、しかもインターネットで調べても得られる情報には限度があって、生の声を聞けないことにもどかしさを感じていたので、今回こうしていろいろな立場の方と

お話しする機会を設けてくださり、大変感謝。（看護大学生）

- ・高校生、大学生などの若い世代の方から、現場で働く医療職の方、患者、家族など様々な立場の方との話ができて、情報を得ることができ、とても良い機会だった。医学生がどんな考えで医師を目指すのか、これからどんな医師になってほしいかなど、志を知るうえでとてもいい機会となった。今後も生活者の視点を持ち、医療に携わってほしいと強く願っている。（看護師）
- ・宮医大生の地域医療実習についてのお話を聞くことができ良かった。若い方の考えや想いを聞き、これからの宮崎の中心となって欲しいと思った。また医者、看護師、歯科医、薬剤師、行政（保健士）、地域住民がうまく連携できる宮崎になっていくといいなと思った。（患者会）
- ・今回、宮崎県の取り組みについて知り、宮崎の人と交流を深めることを通して自分の大学・地域と言葉や実習体系が異なることにとても驚いた。ですが、患者さんの出身地や生活背景は一人一人違うからこそ、患者さんについての情報（カルテ上の）だけでなく自分自身が住む・働く地域についても知ることで、患者さんを五感で理解することができるのだと感じた。がん患者さんの治療と仕事の両立支援の現状についても参加者の方から直接話をきき、とても有意義な学びを得ることができた。（大学教員）

#### （４） 多職種連携コーディネーター養成事業（宮崎県委託事業）

「ごちゃまぜ師養成講座」

県内で多職種連携教育（IPE）を企画・調整できる IPE コーディネーターを育成する研修会を実施するとともに、研修修了後に、県内各地で円滑かつ迅速に連携・協力して IPE が推進できるよう、ネットワークの構築を目的としたフォローアップセミナーやごちゃまぜ師実践交流ネットワーク会議、交流会を実施する。

##### ① 多職種連携セミナー

- ・基礎編として多職種連携を学ぶ 1 日研修。県内の 2 か所で実施

##### ② 養成講座＜合宿＞

- ・多職種連携セミナーのアドバンスコース、2 日間の合宿形式

##### ③ フォローアップ研修

- ・養成講座受講者のフォローアップのための研修

##### ④ ごちゃまぜ師実践交流ネットワーク会議

- ・ごちゃまぜ師養成講座受講後の受講者及び地域間のネットワークを深め、立案した成果を共有し、多方面での活用を促す目的で開催

事業統括：宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 吉村 学 教授

期 間：2021 年 9 月～2022 年 2 月末

担 当：有馬あゆみ

参加者数：基礎コース 41 名

アドバンスコース 21 名

### 3) エンドオブライフケア支援事業

#### (1) 暮らしの保健室

「地域に開放した暮らしの保健室を目指して」

開設から6年が経ち、経年劣化や床の汚れなど日頃の掃除では対応できないため、今年度は「宮崎市まちづくり環境整備補助金」を活用し、まん延防止等重点措置期間中に点検整備を実施した。

整備内容：床クリア塗装（研磨含む）・外部スロープ塗装・IH取替・エアコン追加設置

効果：点検により、スロープの補強なども行うこともでき、安心安全度が増した。

感染対策のための換気をしながら快適に過ごせる居場所づくりをすることができた。



暮らしの保健室で催される内容を、毎月「暮らしの保健室だより」として発行

計12回発行



《暮らしの保健室利用状況》「ゆるりサロン」は定例・毎週月、水 10:00～15:00

月	日	曜日	時間	内容	人数
4	2	金	18:30～19:30	臨時総会	9
	9	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	5
	9	金	18:30～19:30	在宅総合支援「たちばな館」実行委員会	11
	10	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	7

	11	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	7
月	日	曜日	時間	内容	人数
5	6	木	10:00～12:00	赤江まちづくり推進委員会 つなごう部会	中止
	9	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	3
	15	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	中止
	28	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	3
	29	土	13:30～14:30	総会	9
6	12	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	中止
	13	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	7
7	10	土	13:30～15:30	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	中止
	11	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	3
	30	金	18:00～19:00	臨時理事会	8
8	6	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	中止
	8	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	4
	18	水	13:30～15:30	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	中止
9	12	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	中止
10	8	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	5
	9	土	10:00～12:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	8
	10	日	13:00～16:00	聞き書き勉強会	4
11	13	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	10
	21	日	13:00～16:00	聞き書き勉強会	4
12	10	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	6
	11	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	2
	12	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	3
1	8	土	13:00～16:00	ふらっとカフェ in 暮らしの保健室	2
	9	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	6
2	13	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	4
3	11	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会	6
	13	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会	3
	30	火	18:00～19:00	理事会	8

## ①ゆるりサロン

実施日時：毎週月・水曜日 13:00～15:00

場 所：暮らしの保健室

担当理事：立川志乃

ボランティア：7名（うち体操指導2名、パッチワーク指導1名）

参加者：自分で来所することができる方、ご家族送迎のある方

コロナ感染予防対策として、月曜日5名・水曜日4名と参加人数を調整し実施。

実施日（回数）：2021年4月(8)、5月(感染拡大予防のため中止)、6月(9)、7月(8)、8月(2)、9月(4)

10月(8)、11月(8)、12月(8)

2022年1月(3)、2月(2)、3月(8)

合計 74回

延べ利用者（人数）：2021年4月(30)、5月(0)、6月(31)、7月(29)、8月(8)、9月(16)

10月(30)、11月(31)、12月(31)

2022年1月(11)、2月(8)、3月(28)

合計 253名

延べボランティア数(人数)：2021年4月(34)、5月(0)、6月(43)、7月(35)、8月(11)、9月(19)

10月(35)、11月(38)、12月(34)、

2022年1月(13)、2月(12)、3月(36)

合計 310名

年間行事：7月 七夕さま

12月 クリスマス会

4～2月 イオン幸せのイエローシートキャンペーン参加



要支援までの認定を受けるまでもない一人暮らしの高齢の方や、要介護であってもデイサービスの無い日に気軽に出かけられる場所。そこに行くとなじみの顔があり、楽しみができることにより、健康を取り戻し、認知症などの進行を抑えることができている。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、利用人数の制限、検温、消毒の徹底、アクリルパーテーションを設置、消毒をするなど感染予防対策に努めながら利用をしていった。



## ②ゆるり短歌会

実施日時：隔月第2金曜日 10:30～12:00

場 所：暮らしの保健室

指 導：堀越照代

担当理事：立川志乃

会 友：6名

実 施 日：2021年4/9(5)、5/28(6)、10/8(5)、12/10(6)、2022年3/11(6)

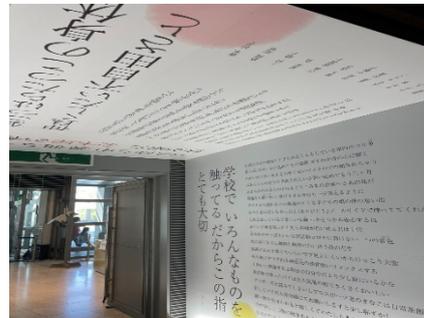
合計5回 延べ参加人数28名

### 【イベント参加】

第35回 国民文化祭・みやぎき2020

第20回 全国障害者芸術・文化祭みやぎき大会

共に生きて共に感じる 芸術文化プログラム短歌展「みやぎき短歌きり★」に参加



会友は、2ヶ月に1度の短歌会を楽しみにしている。

年度末には、これまでの短歌をまとめた作品集「ひこうき雲」②の編集作業を行った。

### 【作 品】

きそけい あした  
黄素馨も山吹ミモザも満開の朝の庭を黒猫通る

風に乗る花香を受けし白き蝶庭に舞ひ来て何を告ぐるや  
ゆるゆると母と歩めば野の花のピンクや黄色目に留まりたり  
十年後「ひなたで会おう」あったらな夢を抱いてバトンを託す  
春陰をけちらす子らの響く声堤防翔けるサッカー少年  
大空に心あづけて過ごす日は風の痛みに触るる気のする



## ③えがおキッチン

講師：松井康代（助産師・調理師）

2021年度も昨年同様、実施することができなかった。

## ④セルフケアのためのお灸教室

講師：園田清美（看護師・鍼灸師）

2021年度も昨年同様、実施することができなかった。

## （２）がんサロン（ふらっとカフェ）事業

主 催：宮崎県 運営企画：ホームホスピス宮崎

担 当：太田幸子

カフェスタッフ：9名

アロマセラピスト：2名

実施方法：宮崎県立宮崎病院の会議室使用ができない間は、暮らしの保健室にて実施。2021年12月からは、病院の立ち入りが解除され、蔓延防止等重点措置が解除された月は、会議室で実施可能となった。配布していたチラシに暮らしの保健室での開催を掲載していたため、両会場で実施することとなった。

実施日時：毎月第2水曜日 13:30～16:00

場 所：県立宮崎病院 会議室

実 施 日：2021年12/8、2022年1/12、3/9

県立宮崎病院 3回

実施日時：毎月第2土曜日 13:30～16:00

場 所：暮らしの保健室

実 施 日：2021年4/10、10/9、11/13、12/11、2022年1/8、3/12

暮らしの保健室 6回

スタッフは、ワクチン接種済み、換気、石鹸での手洗い、手指消毒、マスク着用、座る間隔などの感染防止対策を確認した。参加者(スタッフも)は、入り口で検温、手指消毒、連絡先、問診票の記入を行う。お茶は、個人へのペットボトルでの提供、茶菓を提供した時は、一口で食べられる物にし、マスクを外す時間が最小となるように考慮した。アロママッサージは、パーティションを挟んで実施した。

### 【参加者感想】

- ・「ふらっとカフェ」さんで話を聞いてもらっていると、心の中のモヤモヤが晴れてきます。悩み事の解決の糸口が見えてきます。ここに来ると楽しい。
- ・緩い感じで過ごしやすい。
- ・ここでは、私の話をじっくり聞いてもらえて楽しかった。
- ・会いたい人がいるので参加している。パソコン越しは伝わらない。対面で心おきなく会話がしたい。
- ・自分がしている切り絵や竹細工の作品を披露したり、皆と話をするのが楽しみで、毎回来ている。

### 【まとめ】

開催がギリギリにならないとわからず、参加者に了承を得て個別に連絡や、LINEの患者グループへの連絡をした。ホームページ、患者会やサロンの一覧を見て、来られた方もあった。新病院の4階会議室は、医局に出入りする医師が覗いてくれる。患者様へのお知らせは、チラシを受付や、病棟、化学療法室などに置いてもらい、開催の案内をしたい。新型コロナウイルス感染拡大で、人とのコミュニケーションが

激減している中、対面で、時間を気にせず、モヤモヤしている心や、頑張ってきた自分の心の内を吐き出し、一緒に笑うことは、患者さん同士でも、スタッフにとっても貴重な学びの時間となっている。

### (3) 宮崎市在宅療養支援事業 (宮崎市補助事業)

#### ①在宅療養でんわ相談室

相談担当：理事長・看護師・事務局

相談件数：48件 (かあさんの家入居6名)

主な相談内容：コロナ禍の寄り添い、施設入所、在宅医療、看取り

#### ○相談窓口の設置

- 宮崎市において、がんや認知症等の終末期患者で、医療機関での積極的な治療を望まず、住み慣れた地域で、馴染みの人に囲まれて最期の時を過ごしたいと在宅療養を選択して、様々な困難にぶつかったときに、共に考え話を聞き語ることで、自分自身の気持ちや症状を整理し、「わたしらしく生きる」道標の場を設置する。
- 相談窓口設置の周知のためにチラシ作成し、自治会回覧板での案内。

○メンタルケアや看取り、認知症の介護に精通している看護師等の相談員を置く。

○相談専用電話機を設置し、常に相談できる体制を整える。

専用相談電話 0985-67-5003

相談日：週5日午前10時から午後5時まで開設。

相談は、電話、または面接してお話を聞く。相談料無料。

相談内容に関する個人情報保護の重要性を認識し適正に取扱う。



#### 【相談内容と対応】

癌の治療に関して抗がん剤や痛みの治療についてなどの専門的な医療の問題や、どのように施設を選べばいいのかなど、医療や介護に関しての専門的な相談が多い。癌に関する相談の場合は「ふらっとカフェ」や「マギーズ東京電話相談」を紹介している。対面で話をうかがうことが難しかったため、電話相談に時間をかけ、どうしたらご本人にとって一番最善なのかを一緒に考える時間を取っている。

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言やその後の外出自粛、病院や施設での面会制限が長期化することにより、県外に住んでいるために面会だけでなく手続きにも行けない、施設の対応が十分でないといった相談も出てきた。また、人とつながることのできなくなった在宅(1人暮らし)本人や心配する友人からの相談もあった。

自治会回覧からの相談も増え、回覧で見てメモをしていたことを教えてくださった方もいた。

相談内容によっては答えに困る内容もあったため、専門機関へ繋げるように、日頃から連携しておかなければならないと実感した。

## 4) ホームホスピスカあさんの家事業

### (1) かあさんの家の運営

統括マネージャー：久保野イツ子

主 任：曾師・薬師寺恵、霧島代行・甲斐昌江、月見ヶ丘・荒川久美子、安庵・山下信子

#### 【事業内容】

- ①訪問診療、訪問看護と必要に応じてその他の職種の訪問サービスを受け入れ、地域連携サービスを整える。ここから、他の事業所のデイサービスなど利用する。
- ②24時間365日対応で、夜間1名、昼間2名のスタッフ配置。
- ③家族を対象とした死のプロセスの理解や、看取りの心構えなどを、かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携して補完する。
- ④高齢者の摂食嚥下に配慮して嚥下訓練やソフト食の提供。調理担当スタッフがいることで、台所からの音や匂いがあふれ、食欲が増す効果がみられるようになった。
- ⑤本人の意思を尊重した個別ケアを実施する。(排泄、食事、入浴、睡眠など)
- ⑥防災など地域住民と連携し、日ごろからのコミュニケーションを図る。日頃からの挨拶や地区の行事に参加するようにしている。

#### 【かあさんの家の運営】

- ・2022年2月より、生目台支え合い安庵を併合して「かあさんの家安庵」が加わった。住人が少なくなって運営が成り立たなくなったのがきっかけで相談を受けて統合することになり、勤務するスタッフがそのまま雇用するという形を取った。
- ・課題としては介護職の不足であり、スタッフは余裕のない勤務体制でなんとか新しい人員を求めて、ハローワークだけでなくSNSなどを利用して募集をしている。
- ・かあさんの家で看取った方々が、本年度は5年から10年という期間暮らしていた方が、ほぼ老衰で寿命を全うされた。面会できないからと入居された方は、1カ月と短期であった。しかし、病院では家族が看取ることができなかった、本当に良かったとの言葉があった。

#### 【新型コロナウイルス感染への対策】

- ・コロナ禍の中でのご家族の面会には、一律に面会謝絶をするのではなく、感染状況に合わせて面会の制限を設け、ご家族には協力依頼を文書などで伝えた。まず“ウイルスを持ち込まない”ことをご理解いただき、玄関口で検温、発熱している場合は出入りを禁止。マスク着用、手指消毒、フェイスシールドの装着などを徹底し、面会の滞在時間は10分から15分程度で制限。県外、特に感染拡大地域からの来訪は、1週間から10日からの猶予をもって来訪してもらった。
- ・人と人との接触感染で広がる新型コロナウイルスに対して、リスクを抑える要因として、1軒あたり5人という小さなコミュニティであることがあげられる。接触する家族やスタッフの数が限られており、各々の生活の実態が把握でき、このコミュニティを拡大しないことが、リスクを最小限にとどめる

要因であると考える。

### 【行事や研修生の受け入れ】

- ・お誕生会やお花見会

それぞれのお誕生会は、スタッフが主になってお祝いました。本年度はご家族の面会や出入りを制限していたために、お花見は中止し、誕生会は写真や動画で伝えた。

- ・研修生の受け入れ

研修医や看護学生の研修や実習などを受け入れが困難の状態が続いている。



### ◆かあさんの家 曾師◆

現入居者：5名（認知症2名、透析1名、全盲2名）平均介護度：3.8

スタッフ：介護職7名、調理 1名

看取り数：1名 新たな入居者：1名

- ・神経難病、がんで、自宅療養から専門病院入院となったが、せん妄が続き、家族の面会もできないため入居。家族が寄りそって3か月後の看取り。
- ・訪問看護S Tぱりおんのサポートで在宅での療養をされていて、在宅での暮らしが困難になり入居された方1名。生活保護であり、食生活はじめ生活のリズムをつけることで、余命を告げられて入居だったが、現在小康状態を保っている。



### ◆かあさんの家・霧島◆

現入居者：3名（認知症2名、心疾患1名）

平均介護度：3.5

スタッフ：介護職6名、調理 1名

看取り数：2名 新たな入居者：1名

- ・神経難病で、胃瘻で栄養補給しながらも、ゼリー状のものを一日に1回は口から摂取する（全介助）ことで、生ききられた。14年間、ほぼ毎日ご家族は面会を続けた。むしろ息子のために生きてこられた年月であった。
- ・認知症で施設入居するも、摂食を拒否するように食事がとれなくなり入居されたが、次第に生活になれて近所にある実家に散歩もできるようになられた。時折無呼吸状態が見られるようになり、ご家族が1週間付き添われて穏やかな看取りであった。4年半のかあさんの家での生活であった。

### ◆かあさんの家・月見ヶ丘◆

現入居者：5名（気管カニューレ1名、経管栄1名、認知症2名、高次障害1名）

平均介護度：4.8

スタッフ：介護職6名

看取り数：2名 新たな入居者：2名



- ・コロナ禍のために病院では家族の看取りができないために入居、感染対策で外からの出入りをゾーン分けしてご家族が寄り添い看取る。本来なら家に帰りたいという本人の希望をかなえが、農繁期であり家族での介護ができない。ご家族がリレーして寄り添われた。肝臓がんであったために余命を告げられていたが、入居期間は1カ月。
- ・胃瘻から訓練してはずし、口から食べられるようになったが、再び状態が悪くなって経管栄養になられた。何度も危篤状態になられたが、何度も復活し、9年の入居期間「ご苦労様でした」と声をかけた。
- ・現入居者は、気管カニューレ、経管栄養、喀たん吸引などの医行為が必要で、重度介護が必要な方々である。病状は落ち着いて居てそれなりに穏やかな生活が継続されている。
- ・遺贈寄付により、テラス屋根設置をし、雨天時もテラスから面会できるよう環境整備をした。

#### ◆かあさんの家・安庵◆

現入居者数：1名

平均介護度：5

スタッフ：介護職 9名

看取り数：1名 新たな入居者：1名



- ・当初からの入居者である方が、かあさんの家が統合した日の朝、そのことをわかっておられたように静かに息を引き取られた。
- ・乳がんで認知症もある為、息子の暮らす宮崎に転居し、安庵に入居。その日に新たな入居者を受け入れた。進行して皮膚のただれの治療に潤和会病院に入院。ご家族は、最期は病院でとの希望であった。

#### 【支援・補助金等】

- ・公益財団法人 JKA…自動消毒検温器 3台・空気清浄機 12台・二酸化炭素センサー3台  
パルスオキシメーター6個
- ・メットライフ生命…CSR活動…手作り雑巾の寄付（掃除や入浴介助時に活用）

#### （2）訪問介護ステーションぱりおん（医療・介護保険規定による事業）

管理者：甲斐昌江

サービス提供責任者：薬師寺恵、甲斐昌江、荒川久美子

スタッフ：26名 うち夜勤専従5名

介護福祉士11名、ヘルパー1級1名、ヘルパー2級9名

#### 【内部研修】

- ・毎月初めに主任会議(シフト会議)
- ・定例スタッフ研修(毎月、各家ごと)  
新型コロナウイルス感染対策のため中止  
緊急時は、スタッフ会議を行う

#### 【外部研修】

なし

## 5) HALE たちばな(2021年10月1日開所)

### (1) 事業概要

訪問看護は、9月より移転を始め、徐々に拠点をHALE たちばなに移してきた。10月1日に開所式を行い、10月4日より、短期入所、日中一時支援、診療所をスタートした。HALE たちばなの機能は次のとおりである。

- ・HALE たちばな事務局（事務長1名・事務員1名）
- ・みつばち診療所（主として訪問診療）
- ・訪問看護ステーションぱりおん
- ・福祉型強化短期入所 leilei（定員5名）
- ・日中一時支援 ohana（定員最大10名）
- ・たちばな学舎（ミーティング、セミナー、各種教室に利用）
- ・コミュニティカフェ游椿（福祉トイレなどを備えたカフェ）

コロナ禍でのスタートとなり、また、訪問看護以外は全て新規事業であるため、人事配置、行政への各種申請、助成金の時期調整など様々に課題はあったが、半年経過した3月末時点では大きな課題はある程度解消され、軌道が見えてきたと言える。この間、みつばち診療所、訪問看護ぱりおんでは、県医師会の委託により、在宅コロナ患者の追跡サポート業務も実施してきた。

### (2) 開所行事

#### 【内覧会】

期 日：2021年9月24、25、27、28日

来訪者：10団体、利用予定のご家族

#### 【開所式】

期 日：2021年10月1日

参加者：日本財団、宮崎市、建築関係者、地域活動にかかわっている方、商店街の方 など  
(プログラム)

10:00～お祓い（宮崎八幡宮）

10:30～受付

11:00～テープカット

- ・理事長挨拶
- ・来賓挨拶(宮崎県、宮崎市、日本財団)
- ・お祝いのメッセージ(高橋昭彦氏、秋山正子氏、迫井正深氏)
- ・感謝状贈呈
- ・施工者挨拶
- ・終わりの挨拶



### (3) 寄付

短期入所 leilei や日中一時支援 ohana 利用される方の送迎車の購入のために実施

#### 【クラウドファンディング】

READYFOR 7月～9月

支援者：327名

最終金額：6,339,000円

購入…送迎車、非常用蓄電池

支援をかたちに、たちばな学舎壁面へドネーションツリー(宮崎県産材使用)を設置。



#### 【直接寄付】

支援者：105名

### (4) 休眠預金等活用事業

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まった。

ホームホスピス宮崎は、2021年度より、休眠預金を活用した「社会的孤立解消のための事業」に取り組んでいる。

対象者は、HALE たちばなの leilei、ohana を利用する子ども達のご家族(主に母親)。

- ① コミュニティカフェを活用した様々な専門家による相談カフェの実施
- ② 研修ルームを活用したクラフト教室やヨガ教室などの定期開催
- ③ 制作されたクラフト作品などの販売サポート
- ④ 全国の先進的な取り組みとの連携
- ⑤ SNS やリモートミーティングシステムを利用した交流や SOS ネットワークの構築
- ⑥ 福祉避難所としての設備の整備
- ⑦ これらの取り組みを実施、運営するための事務局体制の整備を3年間の計画で実施する。

この事業は、2023年度までの3年間の事業で、事業に関わるスタッフの person 費、備品費、セミナー等の講師謝金などが助成される。

### (5) たちばな学舎・コミュニティカフェ游椿の利用について

#### ① たちばな学舎

宮崎大学と連携した研修施設として開設。

カルチャー教室を開催したり、多目的スペースとしての一般貸出も可能。

#### 【利用実績】

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 2021年11月19日 | 全国ホームホスピス協会会議         |
| 12月10日      | ライフデザイン塾              |
| 12月18日      | ごちゃまぜ師養成講座基礎コース(宮崎大学) |



その他、内部研修、ミーティングなどに利用。

2022年2月～3月 新型コロナワクチン接種会場（みつばち診療所）としても利用。

## ②コミュニティカフェ游椿

ケアルームやオストメイト対応トイレを備えたカフェとして開設。

営業は、外部の方と委託契約を結んでの運営。

10月～11月は、ランチとティータイムの営業をしていたが、委託運営者の都合により休止。

3月より、カレーランチを中心に提供する委託者と契約。

スタッフ（2階の利用者の医ケア児保護者）がフロア業務を一部担当（休眠預金事業の一環として）



## （6）医療・介護保険規定による事業

### ①みつばち診療所（2021年10月1日開院）

医師：楠元恭子（家庭医療専門医）

看護師：1名

事務：1名

受付：8：30～17：30

休診日：土曜・日曜・祝日

0歳からご高齢の方まで、年齢や疾病によらず、患者様や介護されているご家族に寄り添った訪問診療を行う。

### 患者数

訪問先	人数
居宅	25
施設	17(10施設)
計	42

### 保険請求件数

訪問月	件数
10月	7
11月	15
12月	17
1月	68
2月	60
3月	83
計	250

### 実績(延人数)

	人数
自宅看取り	6
外来	61
コロナ対応	159
計	226

②訪問看護ステーションぱりおん

令和3年10月1日より主事業所、橘通東3丁目へ移動

恒久は、「サテライトぐりーん」として稼働

所 長：堤育子

看護師・保健師：常勤7名・非常勤2名

理学療法士：常勤2名・非常勤1名

介護福祉士：1名

事務：非常勤2名

【事業内容と実績】

月	介護件数	医療件数	介護予防	計
4	160	410	5	575
5	141	339	9	489
6	147	421	8	576
7	151	385	9	545
8	155	387	10	552
9	159	421	8	588
10	155	327	10	492
11	154	406	9	569
12	166	430	9	605
1	151	404	9	564
2	156	407	8	571
3	216	507	6	729
計	1,911	4,844	100	6,855

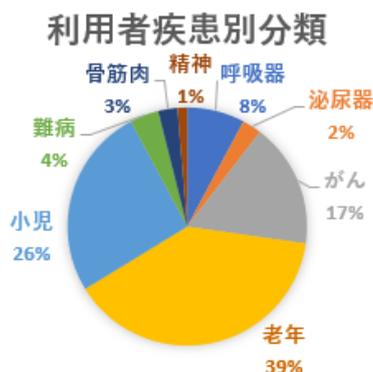
延べ訪問回数 6,855 件

利用者数（月別）

4月 48人 5月 34人 6月 44人 7月 40人 8月 47人 9月 46人  
 10月 49人 11月 53人 12月 55人  
 1月 59人 2月 63人 3月 61人

延べ人数 599 人

利用者分類



## 死亡した場所

自宅：10名 かあさんの家：2名 病院：5名 施設2名

計19名

### 【外部講師派遣等】

(堤)

宮崎看護専門学校医療専門課程 地域看護概論 (5/12 5/19 6/2 )

宮崎看護専門学校 医療高等課程 講演 (5/13)

宮崎大学医学部看護学科 がん、小児訪問看護 (5/21)

熊本大学医学部看護学科 在宅感染 がん看護 (7/6)

宮崎県立看護大学 地域看護 (6/18) 死生看護学 (11/2)

宮崎県看護協会セカンドレベル 保健福祉の協働 (10/10)

専門・認定看護師会 在宅感染予防 (10/25)

在宅看護学会シンポジスト (11/14)

日南看護専門学校 (6/8 11/26)

宮崎県社会福祉協議会 医療と福祉の連携 (11/24)

ホームホスピス全国合同研修会 (11/21)

宮崎県看護人財交流支援事業協力員

訪問看護事業財団アドバイザー派遣事業アドバイザー

(吉田)

宮崎市社会福祉事業団 医療的ケア研修 (8/2)

### ◎参加研修

6月 症例検討 (県立宮崎病院)

11月 感染看護研修

在宅看護学会

12月 災害看護

### ◎社会活動

(堤)

宮崎県専門認定看護師会アドバイザー

新型コロナ在宅療養者健康観察支援

学校における医療的ケア児支援

スクールキッズケアラボ 就園就学支援プログラム

③日中一時支援 ohana (2021年10月1日開設)

管理者：川越やよい

看護師：常勤1名、非常勤1名

介護福祉士：常勤1名、非常勤2名

保育士：2名

生活支援員：1名



【事業内容】

主な対象：医療的ケアが必要なお子様

運営：月～金(土日祝年末年始休み)

時間：9時～18時(送り17時) 送迎あり

定員：最大10名

食事：朝100円/昼・夕200円

入浴：保険外利用は500円/1回

【一日の流れ】

日中 ～朝から来所

来所 バイタルチェック

午前中 入浴・処置

水分補給

お昼 注入

午後 レクリエーション

帰りの準備

退所

～学校終了後來所

来所 バイタルチェック

入浴

水分補給・注入

帰りの準備

退所



【日中行事の様子】

お天気のいい日は、近くの公園や商店街へ散歩

楽しい1日を過ごせる場所になるようレクリエーションなども企画



【実績】

月	利用人数	未就学児	就学時	高校卒業後	計
10	12	3	9	0	24
11	11	5	6	0	22
12	13	6	7	0	26
1	11	4	7	0	22
2	11	4	9	0	24
3	13	4	9	0	26

計	71	26	47	0	144
---	----	----	----	---	-----

④共生型短期入所(福祉型強化)施設 leilei (2021年10月1日開設)

管理者：広瀬知佳

【事業内容】

主な対象：医療的ケアが必要なお子様

運営：木～月(年末年始休み) 最長2泊3日

時間：15時～翌17時(帰り15時)

定員：5名

食事：朝100円／昼・夕200円

木～土は送迎あり

「HALE たちばな」には、診療所や訪問看護ステーションが併設のため、医療の相談も可能。  
自宅でも訪問診療や訪問看護により連携した医療を提供。

【実績】

月	利用人数		利用者年齢			計
	障がい	介護	未就学児	就学児	大人 (18歳以上)	
10	9	0	2	6	1	9
11	10	1	2	7	2	11
12	9	1	3	5	2	10
1	10	1	3	7	3	11
2	11	1	3	7	2	12
3	12	4	4	8	2	14
計	61	6	16	39	12	67

## 6)ホームホスピス推進研修センター事業

### (1) ホームホスピススキルアップ研修 (全国ホームホスピス協会より委託)

全国のホームホスピスから研修生の受け入れ

- ・12月20日 神戸なごみの家 HHM事務局 (認定NPO法人取得に向けて)
- ・1月13日 ひなたの家 オンライン (ホームホスピス宮崎 HALE たちばな事業)

### (2) 実習の受け入れ

- ・医学生・看護学生・介護職の実習の受け入れが、新型コロナウイルス感染予防のため休止

### (3) 一般社団法人全国ホームホスピス協会

理事長：市原美穂

役員：理事6名、幹事1名

事務局：3名

書記：1名

一般社団法人全国ホームホスピス協会事務局業務委託

#### 【業務内容と実績】

①会員管理

②理事会の開催 (WEB)

2021年4/16、6/3、7/8、8/10、9/16、11/16、11/29、12/27、2022年1/13 計 9回

- ・理事会の資料作成、旅費の支払い各理事との連絡などの業務

③定期総会 (WEB)

期日：2021年11月28日 ・総会の運営、資料作成

④ホームホスピスの認定業務 (現認定14法人)

⑤認定審査業務 (レビュー)

⑥ホームホスピスの学校の運営 (年2期)

⑦全国のホームホスピスの運営に関する相談・緊急支援

⑧拠点整備団体の推薦協会主催の研修会の運営

⑨研修会の実施

第5回ホームホスピス実践者育成塾 WEB開催 期日：2021年9月10,11,12日

第10回ホームホスピス全国合同研修会 宮崎市・WEB開催 期日：2021年11月20,21日

⑩ホームページ運営・ニュースレター (たんぽぽ) の発行

⑪全国の支部活動の支援

関東支部研修会 期日：2022年3月24日

西日本支部研修会 2022年3月25日 西日本支部

⑫新しく開設されたホームホスピスへの支援

⑬助成金の申請他、ホームホスピスの運営に関する資料作成などの業務



## 7) 研究・啓発・情報・広報

### (1) 認定 NPO 寄付文化の醸成

- ・HPで、賛助会員や寄付の呼びかけ
- ・ファンレイジングの活用
- ・助成金の申請
- ・第三者評価（グッドガバナンス認証）

認定ファンレイザー 黒岩 雄二

準認定ファンレイザー 岡田 瑞穂

### (2) ホームページ SNS の充実・報道

- ・ニュースレター 2021年6月発行…31号  
HHMにゅーす 2022年1月発行…32号
- ・暮らしの保健室だより 毎月発行（12回）
- ・ブログ（ぱりおん） <https://blog.canpan.info/hhmiyazaki/>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/homeospice.miyazaki/>
- ・ホームページ <https://www.npo-hhm.jp/>
- ・Instagram・Twitter

マスコミなどの紹介

《新聞の掲載》

2021年8月11日 宮崎日日新聞

2021年10月12日 宮崎日日新聞

2021年11月12日 宮崎日日新聞



### (3) 講師派遣・見学者の受け入れ

- ・講師派遣(市原)
- 4月22日 はちなんカフェ(オンライン)
- 6月9日 東京大学大学院人文社会臨床死生学(オンライン)
- 6月17日 国際医療福祉大学・乃木坂スクール
- 7月10日 とくしま上板熱中小学校(オンライン)
- 9月2日 さわやか財団 いきがいの助け合いサミット(オンライン)
- 12月7日 宮崎大学看護学科「在宅看護論」
- 11月9日 宮崎県立看護大学「死生看護学」
- 11月14日 日本在宅看護学会学術集会(オンライン)
- 12月4日 死の臨床研究会(オンライン)



1月15日 紀州くちくま熱中小学校(オンライン)

2月5日 暮らしの保健室フォーラム(オンライン)

2月19日 宮城丸森熱中小学校(オンライン)

・見学者の受け入れ

ホームホスピスカあさんの家…ホームホスピスの学校受講生、市橋亮一氏、大月敏雄氏  
HALE たちばな…随時対応

#### (4) 委員会参加

- ・宮崎市在宅医療プロジェクト会議…市原、太田
- ・県央在宅緩和ケア推進委員会…市原

### 8) 助成・寄付

- ①日本財団…難病支援事業助成 「HALE たちばな」建築費 (昨年度より工期延長)
- ②休眠預金…社会的孤立解消のための事業
- ③宮崎県…宮崎県地域密着型 NPO 社会貢献活動促進事業補助金 220,000 円
- ④宮崎市…2021 年度宮崎市まちづくり環境整備補助金 599,000 円
- ⑤公益財団法人 JKA…2021 年度緊急的な対応を必要とする事業  
(新型コロナウイルス感染症の拡大防止策) 補助事業 462,000 円
- ⑥クラウドファンディング…HALE たちばな送迎車を購入 6,339,000 円

### 9) 組織運営

#### (1) 理事会・定期総会

##### ①理事会

場所：暮らしの保健室

第1回 2021年(令和3年)5月29日15時～

- ・理事長の選任について

第2回 2021年(令和3年)7月30日18時～

- ・令和3年度(2021年度)の事業計画及び予算について
- ・各種手当の設定について
- ・慶弔見舞金規程の整備について

第3回 2022年(令和4年)1月7日18時～

- ・ホームホスピス安庵の事業引き継ぎについて

第4回 2022年(令和4年)3月31日18時30分

- ・令和4年度 事業計画及び予算について
- ・就業規則の改定について
- ・給与表に追加する手当について
- ・通常総会について

- ・HALE たちばなの運営状況について

## ②総会

### 臨時総会

2021年(令和3年)4月2日18時30分～

議長：松田公利 議事録署名人：立川志乃、立脇一成

第1号議案 定款変更について

### 通常総会

2021年(令和3年)5月29日13時30分～

議長：市原美穂 議事録署名人：久保野イツ子、岡元俊雄

第1号議案 2020年度(令和2年度)活動報告・決算報告

第2号議案 2021年度(令和3年度)役員選出

正会員総数19名のうち 賛成19名 反対0名

報告事項…2021年度(令和3年度) 事業計画・予算

## (3) 会員

正会員 20名 賛助会員 39名 団体賛助会員 2団体

## (4) 寄付者

506名(団体も含む)

## ②事務局

事務局会議…開催日：日にちの設定はしていないが、その都度打ち合わせを行ってきた。

参加者： 理事長、副理事長、担当理事、事務局、管理者

《事務局体制》 総務：2名

経理：2名

